

シグマ研究委員会

昭和60年度第5回運営委員会議事録

日 時 昭和60年12月10日(火) 13:30~17:30
場 所 原研本部第5会議室
出 席 者 鹿園(委員長, 原研)
中沢(東大原施), 中嶋(法大), 村田(NAIG), 五十嵐,
河原崎, 菊池, 長谷川, 原田, 松浦(原研)
オブザーバ: 飯島(NAIG), 松延(住友原工),
浅見, 中川(原研)

配布資料

1. 前回(60.10.29)議事録(案)
2. Fast Neutron Physics, Dubrovnik, May 26-31, 1986
3. 1st Announcement, Specialists' Meeting on Delayed Neutrons
4. Japanese List for INDC Document Distribution
5. NEANDC Distribution List
6. 科学と技術のための核データ国際会議国内組織委員会規程(案), 他
7. 1988年核データ国際会議について: 他
8. Schedule of Planned 1986 IAEA/NDS Meetings
9. 第28回 NEACRP 会合報告
10. 炉定数専門部会活動経過資料
11. 61年年会核データ・炉物理特別会合案

議 事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) International Conference on Fast Neutron Physics

資料2によりアナウンスがあった。

(2) Advisory Group Meeting on Neutron Source Properties

鹿園氏から、日本からの出席者をIAEAに知らせたいので出席希望者は12月中に連絡して欲しいとの要請があった。

(3) Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Fusion Reactor

五十嵐氏から、この会議のアナウンスがあった。

(4) Specialists' Meeting on Delayed Neutrons

五十嵐氏から資料3により紹介があった。

(5) ENSDFの現状

浅見氏から核構造・崩壊データファイルENSDFの整備の現状について説明があった。

(6) INDC, NEANDC 資料配布リストの改訂

五十嵐氏から資料4, 5の説明があり、12月20日までに意見を出して欲しいとの要請があった。

3. NEACRP 会合報告

松浦氏から資料9を用いて、11月4日～8日にMadridで行われた第28回NEACRP会合の報告があった。その中で、スペインの原子力の実情, NEA データバンクの活動報告, CDJの活動報告, JEFの現状, High Priority List 等についての説明があった。また, Technical sessionでは約50篇の論文が提出されたがそのうち日本からは16篇であったことおよび次の会合でのトピックスに delayed neutron, 臨界安全性, FP データ等が挙っている等の話があった。

4. NEANDC 会合報告

五十嵐氏から第25回NEANDC会合について、とくにTechnical, Standard, Meeting の Subcommittee について報告があった。Meeting Subcommittee では国際会議の準備状況について説明し、早くofficial stageにして欲しいと要請したことの話があった。

Standard Subcommittee からはこの国際会議で10MeV以上の標準断面積データのレビューを採り挙げるよう要請のあったことが紹介された。

また、次回から議長に A.B. Smith 氏、副議長に五十嵐氏が指名されたこと
の報告があった。

5. JENDL-3 以後の計画検討小委員会

五十嵐氏から11月1日付で各運営委員にこの小委員会の候補者について意見
を聞いた結果について報告があり、それをもとに審議を行い、できるだけ
メンバーを絞ることで次の6名を選出した。中沢正治（東大）、吉田 正
（NAIG）、長谷川明、水本元治、中川康雄、片倉純一（原研）の6氏で、
小委員会長には中沢氏が当ることになった。なお、小委員会の期限は約半年
とし、候補に挙げた人をサブメンバーとし、専門家が欠けた分野についての
討議の際には、参加してもらうことにした。サブメンバーは瑞賢寛、秋山、
村田、喜多尾、高野、関(泰)の諸氏である。第1回目の会合は12月25日に行
うことにした。

6. データ等の提供基準検討小委員会

浅見氏から核データセンターで検討した人選案について説明があり、了承
された。メンバーは飯島（NAIG）、八谷（三井造船）、長谷川、中川(庸)
浅見（原研）の5氏で小委員会長には浅見氏が当ることになった。

7. 原子力学会特別会合議題

飯島氏から資料11により提案があり、ほぼ原案通り了承された。テーマは
「高転換軽水炉の炉物理と核データ」であり座長には松延氏（住友原工）が
推薦された。また講師候補者への交渉は、原研については松浦氏、それ以外
については村田氏、飯島氏が行うことにした。

8. 核データ研究会について

浅見氏から11月12日～14日に行われた核データ研究会の出席者数、会計等
について報告があった。その後で印象・反省・次回のこと等について討議を
行い、次のような発言があった。

- 英語でやったのにうまくいった。しかし質問する人が片寄った。
- 来年度も同じ形でやるなら今からアナウンスする必要がある。
- これが定着すると、国内で活発な議論をする機会が減ることにならない
か。

- 国内でやる会議を必ずしも英語でやることはないのではないか。
 - 英語でやることを推進してきたのは地域センターへ移行するために実績を重ねる必要があったからである。
 - 無理があったら永続きはしない。
 - 本場の英語国人が加わったらどうだろうか。
 - 国際会議の練習になった。— 練習と言うことで強要するのは良くない。
 - 今回は英語でやることを前提として講師を決めたわけではない。
 - 招待状には使用言語を書くべきであった。
 - 国内の会議は日本語でよい。
 - 今年はうまくいったが、今後もこの調子でいくか疑問であり、アンケートを出して意見を聞いたらどうか。
 - 国際化を目指して頑張ってみるのも良い、無理になったら方向を変えればよい。
 - 名称からはJNDCをとった方が良い。
 - Domesticな会合との区別をどうするか
 - 国際的な形でやるとテーマが大きくなるので、細い議題のために small seminar が別に必要である。
 - 第1回のアナウンスはすぐに出す。
 - 世話人は早く決めておいた方が良い、等々
9. 核データ国際会議準備状況

五十嵐氏から資料6の国内組織委員会規程（案）等について説明があった。この中で、これまでの会議の名称、会議の形式の案、国内組織委員の候補、計画調整部会の役割等についての話があった。また、これまでの資料をまとめたものとして資料7の説明があった。

これに対して質疑応答、討論が行われた。主な意見等は次の通りである。

- 共催、協賛、後援の関係について
- 原研内部での打合せの現状について
- 幹事の役割は何か、計画調整部会を幹事にしたらどうか。
- 組織をいくつも作ることはないので、組織（案）は練り直したらどうか。

- 大学では authorize する機関がないので組織委に入らなくてもよいのではないか。

なお、五十嵐氏から役所への説明，原研内の調整を行っている段階なのでこれらについては後で報告するとの発言があった。

10. 専門部会報告

(1) 炉定数専門部会

長谷川氏から資料10にもとずき，JENDL 積分評価WGの最近の活動状況について報告があった。その中でFP Lump 化検討作業のために短期のサブグループをつくったことが報告された。また，JENDL-3の積分評価のためにシグマ委の中に横断的な組織が必要なこと，およびJENDL-3の評価データを authorize する場が必要なことの指摘があり，長谷川氏にたゞき台の案を作ってもらうことにした。

(2) 核データ専門部会

飯島氏から thermalization データのためのWGの来年度より発足させることになっているが，そのためのkick-off meeting を先日行い，今後の方針を決めたとの報告があった。

村田氏から核データ専門部会の全体会合を1月末に行いたいとの説明があった。

松延氏から中・重核データ・サブWGの近況について報告があった。

次回は1月31日（金）13：30～東海研で行う予定。